

[街並み] 町おこし 新潟県新発田市 たまり駅



がないと客は買い物に来ないからだ。結果として駅前の商店街が壊滅する。そこで国はその反省から「コンパクトシティの実現」と称してH18年に改正法が施行された。しかし例外規定などの抜け道が多く、駅前の活性化の実は上がっていない。顧客が希望する駐車場の要件に関しては市街地内ではそれを満足する敷地が確保できないことが駅前の悩みとなっている。

だがこの市民は城下町としての誇りが強く、観光資源も豊富だ。水がよいので酒蔵も有名だし、近代建築も優れたものが多い。上の写真はそうした中で市が駅前通りに造った観光拠点「たまり駅」である。シャッター街の店舗を借り受け、土産物、喫茶、祭りの山車などで工夫し、場所ごとに趣向を凝らす。パンフレットや案内地図は日本語のほか、英語、中国語、韓国語が用意されている。どこにでもあつた無性格な街ではなく、ここにしかない街のイメージを作り出そうとする。市の活動家の言葉の端はしにその思いを汲むことができる。全国どこでも悩んでいるこの問題を解決するにはケースバイケースの選択肢が必要だ。その選択肢をさらに増やす運動を続けることで、日本の街づくりが本当の意味での観光立国となることを期待したい。

新潟県新発田市は10万石の大家の城下町として、歴史を刻む都市である。新発田城と自衛隊の駐屯基地が中心にある新潟県第5位の人口10.6万人の中核都市だ。しかしこの市街でも同様の悩みだが、駅前をはじめとして旧市街の幹線道路はすべからずシャッター通りとなって人の行き来もまばらだ。H10年に制定された所謂まちづくり三法が、皮肉にもその大きな要因になった。市街の外周にバイパスができて、大型ショッピングセンターなどのフリースタANDING店舗はこぞって郊外に進出する。駐車場



道の駅グランプリ日本一 千葉県富浦町 道の駅とみうら枇杷倶楽部



くものだとの実践を見る思いがする。ひなびた田舎で取り立てて名所がなくても、お客様は定着するのだとのよい実例である。遊園地やゲームがなくても人は集まる。清々しさが人気の秘密と見た。

高速道路のサービスエリアの休憩所に対して、一般国道の休憩所として国交省(国道工事事務所が所管)が配置しているのが「道の駅」である。左は2000年に道の駅グランプリで日本一になった。最寄りの鉄道駅(JR内房線富浦駅)からはかなり遠い。国道の利用客のための施設だからそれでよいとは言えるものの、ここには観光地として目玉があるわけではない。皇室に献上する枇杷の栽培で有名なくらいだ。

それでもリピーターが圧倒的に多い。倶楽部と言うのにふさわしい会員が溢れるようにいる。新鮮な農漁産品のオリジナルブランド品揃えもよい。各種のイベントや季節ごとの客席の工夫をする。何よりも店員が親切だ。商売とは義務的に行うものではなく、創意工夫と人を思いやる温かい心がけから伸びてい